

十一月革命の意

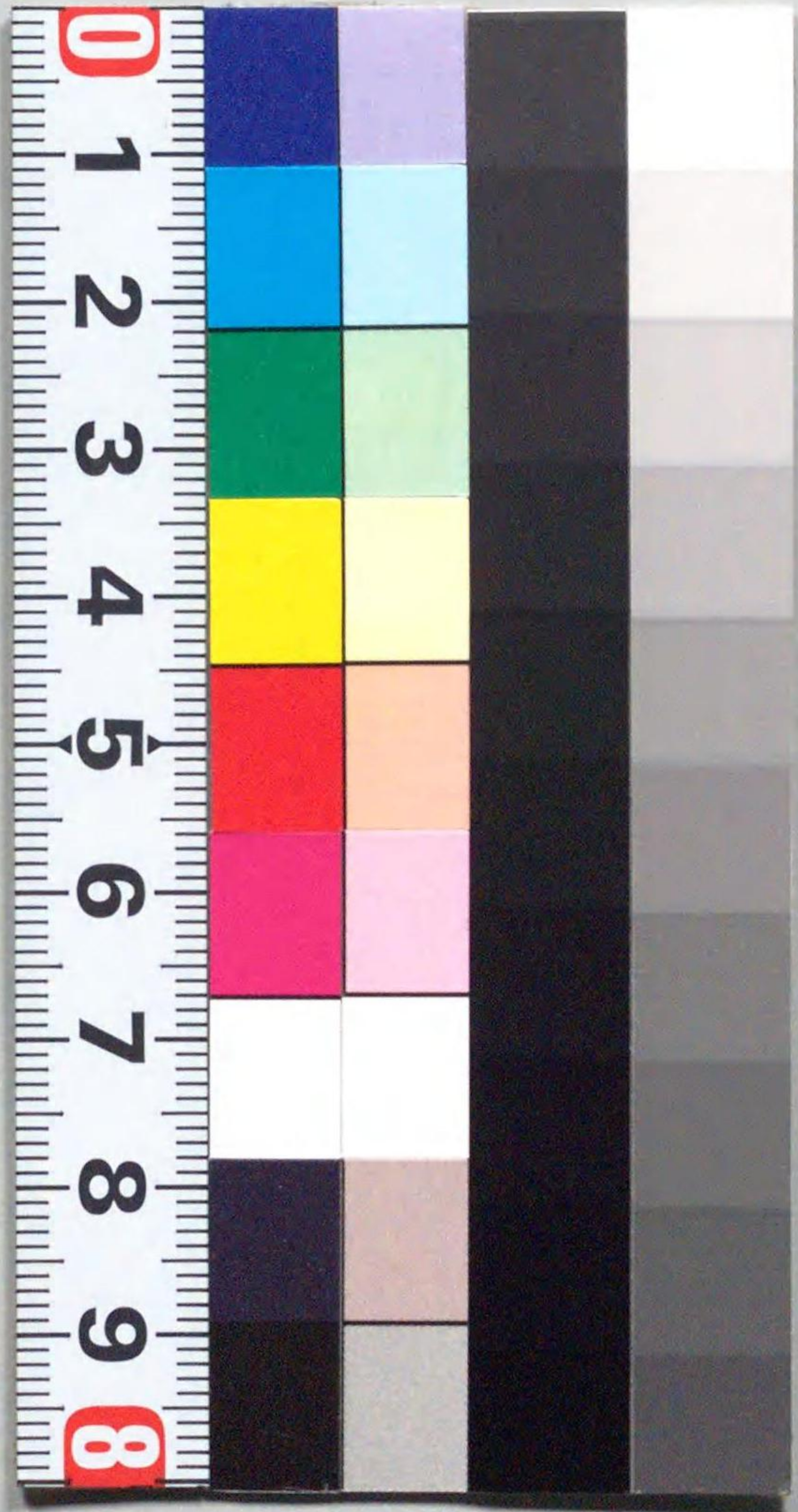
佐野學著

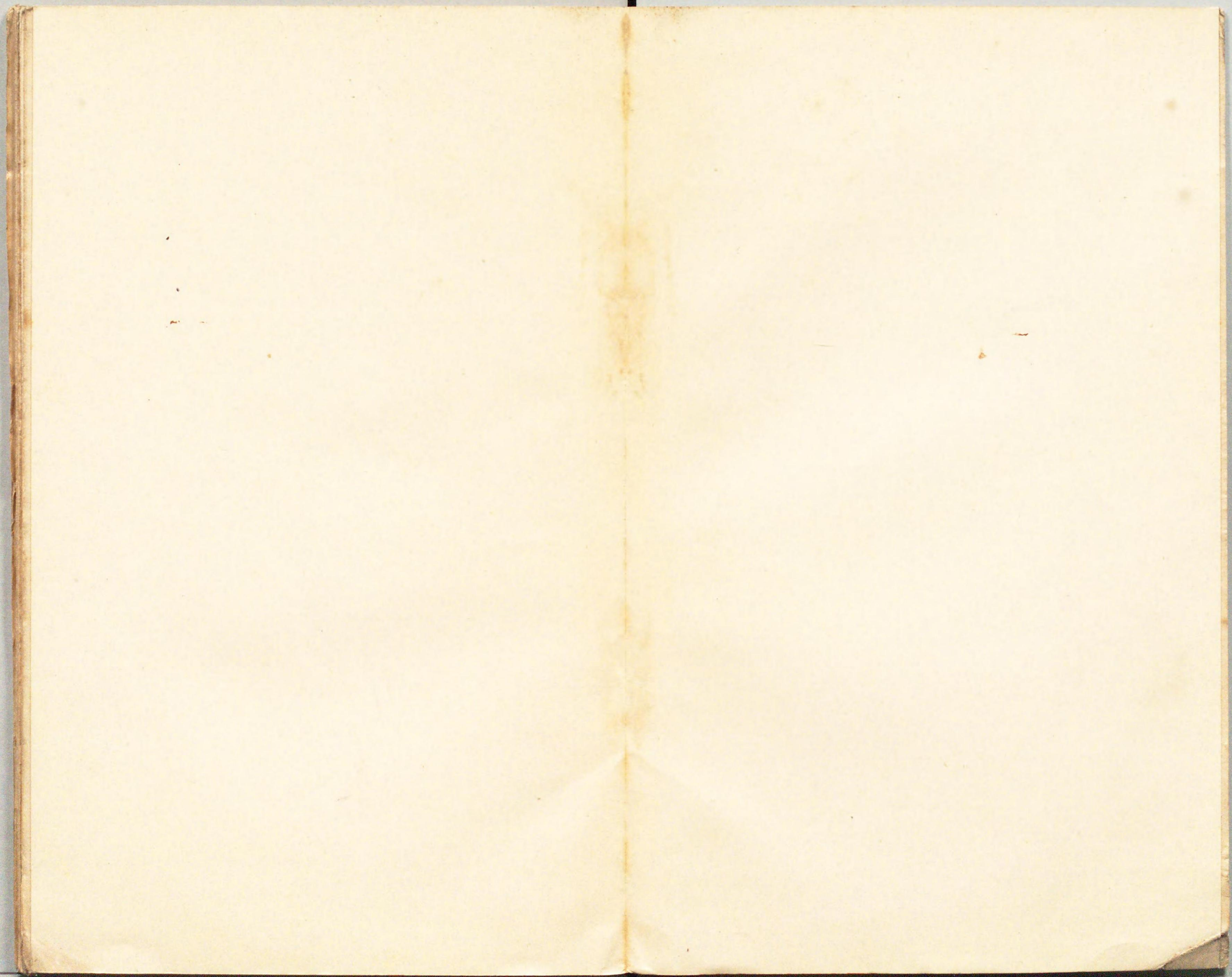
315
361

Y994

J7537

希望閣刊





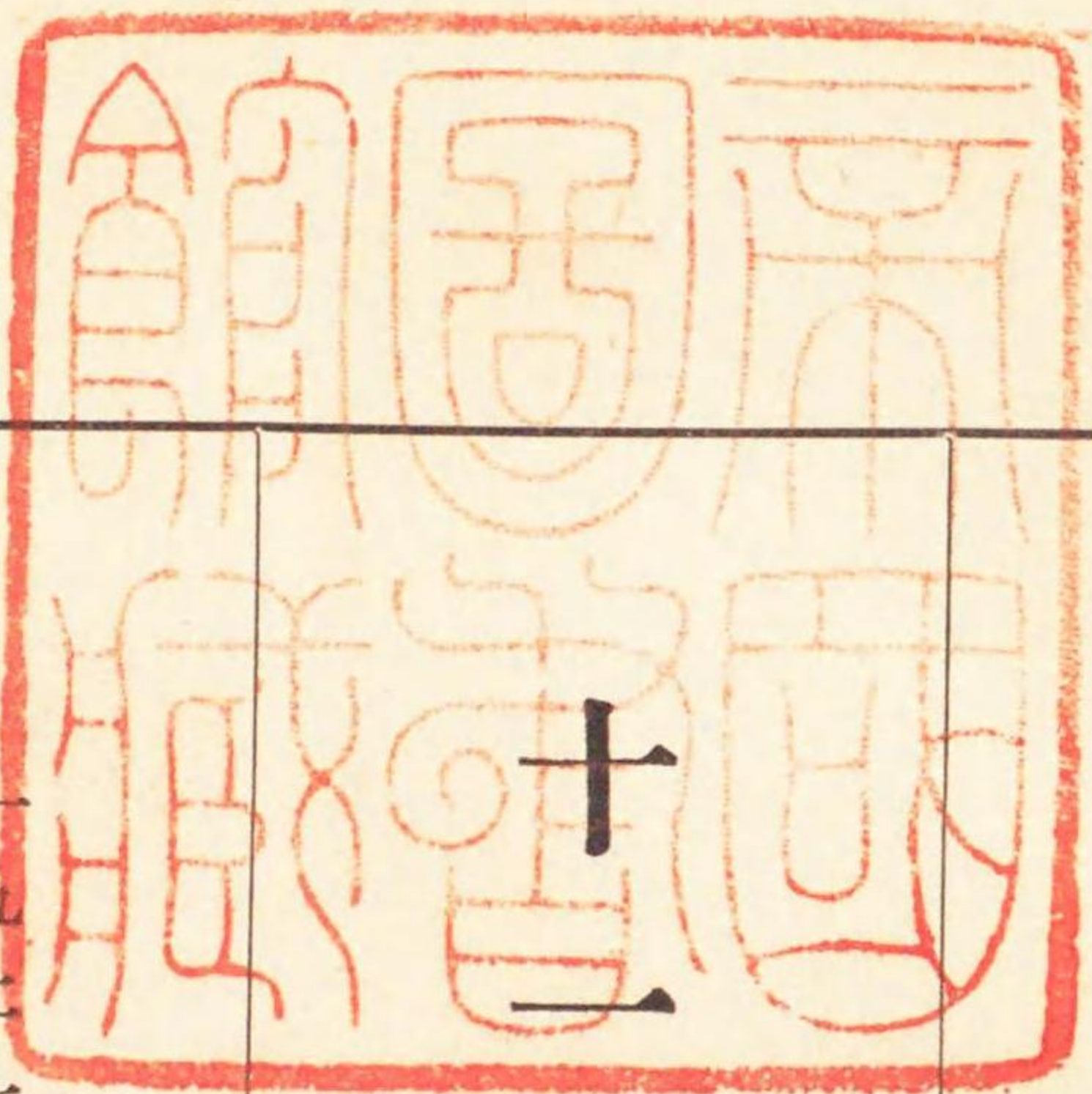


佐野學著

十一月革命の意義

一九二七年

希望閣刊



Y994
J 7537

序

ロシア革命第十週年を紀念するために、この革命を指導したるボリシエヴィキの諸戦術を研究して小冊子に綴り、これを吾國のプロレタリアートに贈る。参考した文献は主として一九一七年及びそれ以後におけるレーニンの諸論文であつた。取扱ひたる範圍は一九一七年三月革命より十一月革命までであつて、三月革命以前及び十一月革命以後には簡単に觸れたにとどまる。匆忙の際に執筆したれば不備多からん。續者諸君の叱正を希望する。

一九二七年十月

著者

序



I 種
W



1200801027947

目次

第一章 十一月革命をいかに理解すべきか

一 世界プロレタリアートの勝利の端初としての十一月革命……………一

何を學ぶか——プロレタリアートを指導力とする革命——新國家形態としてのプロレタリアートの獨裁——ロシヤ革命の國際性——帝國主義とプロレタリア革命——ロシヤ革命の國際性——ロシヤの社會的矛盾——ブルジョア革命とプロレタリア革命——十一月革命の成功を容易ならしめる外部的条件

二 十一月革命勝利の諸條件……………一三

強大なプロレタリア黨の統一的指導のあつたこと——プロレタリアートの多數が

革命の側に立つたこと——農民及び兵卒がプロレタリアートの側に立つたこと——
——ロシア内の諸民族が革命を支持したこと——一九〇五年の革命を経験したこと

第二章 十一月革命におけるボリシエヴィキの戦術

一 三月乃至十一月の主要事實……………

序——第一段階——第二段階——第三段階

二 客觀的狀勢||階級關係のマルクス主義的把握……………三

戦術の基準としての階級間の力の關係——一九〇五年より一九一七年三月までの
階級關係——一の過渡的瞬間としての二重權力——ブルジョア民主革命の終了
——三月革命後における階級力の消長

三 ボリシエヴィキの綱領的要求……………四

レーニンの歸國と四月テーゼ——ボリシエヴィキの綱領的要求

四 諸モメントの敏速なる把握と展開、大衆の自然生長的反抗の目的行動化……………五

大衆の失望||經濟的破滅の危機——大衆の憤激反抗の組織化||四月、六月、七月
の大示威運動——守勢から攻勢へ||目的行動の組織化

五 小ブルジョア社會主義の徹底的排撃……………六

メンシエヴィキ及び社會革命黨の諸罪惡——プロレタリア革命家と小ブルジョア
革命家——妥協について

六 ボナパルト主義との闘争……………七

反革命の要具としてのボナパルト主義——反革命との決定的闘争

七 大衆行動の組織……………六九

マルクス主義と一揆——七月の敗北と十一月の勝利——決定的瞬間における日和見主義的動搖

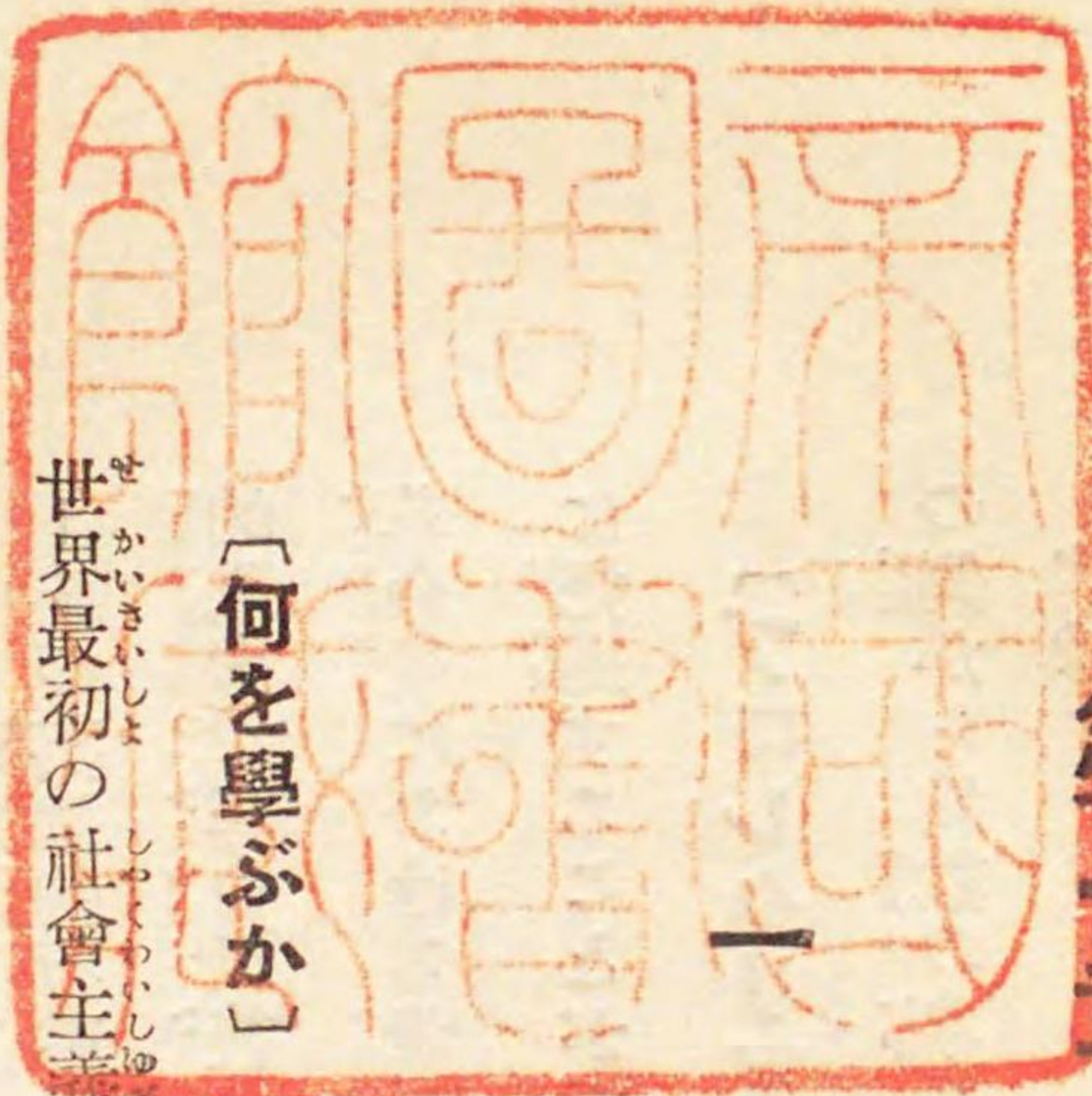
八 フルジョア議會主義の克服……………七五

憲法議會への参加、その召集、解散——ホリシエヴィキの議會戰術

第三章 結論——十一月革命の教訓……………八三

十一月革命の意義

佐野學



第一章 十一月革命をいかに理解すべきか

世界プロレタリアートの勝利の端初

こしての十一月革命

〔何を學ぶか〕

今年の十一月七日はロシアのプロレタリアートが政治權力を掌握して世界最初の社會主義共和國を作つてから丁度十年目である。世界のブルジョアジーは此日

の出來事を回想して新たな恐怖を感じる。現状維持といふことの外に思考能力の及ばない彼等は、勿論、ロシア革命の世界歴史的意義を批判的に汲みとることができない。だがプロ

十一月革命をいかに理解すべきか

レタリアートはその反対だ。プロレタリアートは、ロシア革命十週年に際して、この革命が人間の歴史に齎らした強烈な進歩的意義、この勝利を戦ひとつたロシアのプロレタリアートの英雄的行動、これを指導したボリシエヴィキ（ロシア共産黨）のマルクスレーニンの戦術、革命以後の十年間におけるロシアの労働者の社會主義建設のための雄々しい奮闘革命後における世界狀勢の變化と世界プロレタリアートの諸運動、等々の意義を新に明確に把握することができし、また把握しやうとする。

「プロレタリアートを指導力とする革命」ロシア革命に對しては、ブルジョアジーの側から無數の卑しい讒侮、虚言、中傷がまき散らされた。だが、眞實にはそれは如何なる革命であつたか？ それは過去の革命といかなる差違を有するか？ プロレタリアートはこの革命の歴史的性質をいかに認識するか？

ロシア革命は先づプロレタリア革命である。「革命は歴史の機關車である」（マルクス）。そして資本主義社會における革命的階級はプロレタリアートに外ならない。革命の根本問題は××である。××が何れの階級から何れの階級に轉移したかに在る。ロシアは今世紀において三つの革命を経験した。第一は一九〇五年のそれ、第二は一九一七年三月のそれ、第三は一九一七年十一月のそれだ。前二者は絶対主義を排除するといふ意味においてブルジョア民主主義革命であつたが、一七九二年のフランス革命、一八四八年の西歐諸國の革命の如くブルジョアジーを指導力とするものでなく、一九〇五年には革命の中途からブルジョアジーが後退して革命的勢力でなくなつたに反してプロレタリアートのみが最後まで積極的に戦ひ、一九一七年三月にはブルジョアジーは既に全く反動化してゐて、プロレタリアートのみが革命の指導力として戦つたのである。一九一七年三月のブルジョア民主革命はブルジョアジーの政治的××を確立するよりも、むしろ十一月のプロレタリア革命の前行段階として戦はれた。プロレタリアートは自己の指導的地位を確保しつつ、廣汎なる

農民大衆と鞏固な同盟を結び、マルクスが一八五六年にプロシヤの場合に力説したが如き労働者革命と農民革命との結合を最も見事に成就し、是を通じてXXを自己の手に收めプロレタリア國家を戦ひとつたのである。プロレタリア革命のXX條件は帝國主義段階に於ては、世界的規模においてXXしてゐる。だからロシヤ革命は世界プロレタリアートの勝利の端緒といふ意味を有する。

「新國家形態としてのプロレタリアートのXX」

プロレタリア革命は單にプロレタリアートがブルジョアジーから政權を獲得するといふだけでなく、在來のXXの性質に根本的な變化の加はることを意味する。もと／＼プロレタリアートが權力を求めるとは社會主義を求めからである。「資本主義社會と共產主義社會との中間には前者が後者に革命的に轉化する時期が介在する。一の政治的過渡期間が之に對應する。その國家はプロレタリアートの革命的XX以外のもので有り得ない」(マルクス)。プロレタリア革命の過程

を通じて作り出されるXXは、在來のXXの如く少數の搾取者が大多數の労働民衆に對してXXを行ふものでなく、その逆である。この國家の權力の全基礎は、立法行政等のあらゆる政治生活に最も民主的に參加する大多數の労働民衆である。少數の地主及び資本家の間においてのみ行はれたブルジョア・デモクラシーは揚棄せられて、大多數の労働民衆の間に徹底的に行はれるプロレタリア・デモクラシーが現れる。この新しい國家形態は階級組織としての國家自體を揚棄する第一歩として重大な意味を持つて居り、この點において歴史のあらゆる革命、殊に近代のブルジョア革命と強烈な差異を持つてゐる。

プロレタリアートXXといふ國家形態は、いふまでもなく一九一七年十一月のロシヤに突然に偶然に生れたわけでない。これは一つの歴史的約束、歴史的必然なのである。精確に言へば、歴史上に先づ第一に現れたのは一八七一年のパリ・コムミュンである。フランスのプロレタリアートは同年に一旦、ブルジョアジーを撃破して最も民主的な労働者政府

國々のプロレタリアートの解決せねばならない×××である。それは必ずしも高度に發展した資本主義國家におこるものでなく、帝國主義戦線の弱まれる個所に容易に爆發する。強烈な社會的矛盾を含んでゐたロシヤは世界戦争に依つて益々革命的危機を増大し、帝國主義戦線の最も脆弱なる環となつてゐたのであつて、この故にプロレタリア革命が容易に成立するに至つたのである。

ロシヤ革命を以て單にロシヤの民族的環境の産物と論ずる連中は、一九一七年にロシヤに行はれた世界歴史的事實——十一月革命——と世界歴史自體との内面的連關を切斷しようとするものである。彼等はロシヤ革命を世界歴史の進行の埒外に追ひ出さうとする。公式社會主義者のかゝる非歴史の見解こそ、理論的には辯證法を詭辯論に代へ、實際的政治的には日和見主義者としてブルジョアジの利益に奉仕するものに外ならない。

〔ロシヤ革命の國際性Ⅱロシヤの社會的矛盾Ⅱブルジョア革命とプロレタリア革命〕

吾々はロシヤ革命の國際性を他の方面からも證明することができる。それは前代ロシヤが帝國主義的諸矛盾の最も紛亂的な集中點であつたことである。前代ロシヤは近世におけるあらゆる歴史的矛盾の焦點であつたが故に、そこに最も強いプロレタリアートが生れたのだ。ロシヤ革命は單にロシヤ特有の矛盾の解消過程として現れたのではなく、むしろ世界における帝國主義的矛盾の解消過程の端緒であつたのである。

歴史上、個々の國家が個々の時代に於て指導的地位に立ち、その段階における世界歴史の動きの全體性を代表することが可能であつた。十七世紀のイギリスの革命、十八世紀のフランスの革命、十九世紀半ばのドイツの革命はそれであり、一九一七年のロシヤ革命もそれである。その何れを通じても、社會的矛盾の最も集積した國であつたのである。

十九世紀末から二十世紀初頭にかけてのロシヤは、軍國的な帝國主義と狂暴な絶對專制

主義との抱合した、最も奇怪な、最も矛盾に富んだ國であつた。資本とツアーズムとは暴力的に抱合し、トルコ、支那、ペルシヤに對する慘虐な壓迫者となり、弱小民族を搾取する西歐資本主義の最も巨大な支柱となつてゐた。ロシヤは此期間において言はず資本主義的矛盾の全體性を代表する國であつたのであり、ロシヤのプロレタリアートの闘争は必然に最も徹底した國際主義を執らざるを得なかつたのである。レーニンは一九〇二年に書いた「何をなすべきか」のなかで、既に明確に次の如く言つてゐる。

「ロシヤのプロレタリアートの前にあるものは、測り難きほどの凶惡な試練、巨大なる怪物に對する闘争である。これに比較すれば、憲法を持つた一國の鎮壓法（社會主義鎮壓法を指す筆者）の如きは一寸法師のような者のである。歴史は吾々に示す。ロシヤのプロレタリアートの眼前の任務は、全世界のプロレタリアートのあらゆる眼前の任務のなかに於て最も革命的であることを。この任務の實現、即ち歐羅巴の、しかりまた（吾々は今日かく言

ひ得る）アジアの反動の最も巨大な柱を倒すことは、ロシヤのプロレタリアートをして世界の革命的プロレタリアートの前衛たらしめるのである。」

即ち資本主義と抱合したツアーズムの消滅はヨーロッパ及びアジアの反動の巨柱の消滅を意味し、ロシヤのプロレタリアートは此任務の遂行によつて世界プロレタリアートの新しい運動段階を切り開くものであつた。この點においてもロシヤ革命は動かすべからざる國際性を有してゐる。だからレーニンは「ボリシエヴィキのとつてきた戦術はあらゆる國の運動の戦術の××である」「ソヴェエツト權力及びボリシエヴィキの理論と戦術とは國際的意義を有す」といふような言葉を何等の誇張なしに語つてゐるのである。（「プロレタリアートの獨裁と背教者カウツキイ」「左翼小兒病」等）

前代ロシヤにおいて、絶對專制主義と帝國主義とが最も狂暴的に抱合してゐた爲めに、ロシヤのプロレタリアートは一九一七年三月革命に至るまでは、ブルジョア民主革命の獲

十一月革命をいかに理解すべきか

得といふことを主要の闘争目標としてゐたのである。いふまでもなくロシアのプロレタリアートはプロレタリア革命たる十一月革命の前行段階としてブルジョア民主革命を要求したものである。帝國主義の段階において、ブルジョア革命の未だ完了しない資本主義國家の方がその完了してゐる資本主義國家に比し、プロレタリア革命を實現する機會を却てより多量に有してゐる。この法則的現象の基礎は、かくの如き國ほど社會的矛盾の集積が激烈であり、従つて矛盾の解消過程が急激に押し進められること、労働者、農民、無産市民の大衆が反抗勢力として大規模に結成せられること等に存してゐる。

「十一月革命の成功を容易ならしめた外部的條件」 十一月革命を容易ならしめた外部的條件は、帝國主義世界戦争のために世界の諸帝國主義國家が相互に争闘し、ロシアの十一月革命を壓服するだけの時間と手段とを有しなかつたこと、西歐のプロレタリア

ート及び東洋の被壓迫民族がロシア革命に多大の同情を有し、間接の援助者となつたこと、ロシアの地理的地位が外部の帝國主義者の侵入を防禦するに有利であつたこと、ロシアの自然的資源が豊富であつて、燃料、原料、食料を自給し得たこと、等にある。數個月で崩壊したハンガリーのプロレタリア革命はこれらの好都合な外部的條件を有しなかつた。だがロシア革命にとつて重要なことはいふまでもなく、其内部條件、即ちプロレタリアートの實踐的諸條件だ。私は次にそれを觀察しよう。

二 十一月革命勝利の諸條件

ロシア革命は世界戦争によつて帝國主義國家間の世界秩序が最も紛亂してゐる期間に行はれた。この外部的條件が革命の勝利を助けたことは上述した。だがこの勝利の内部的

十一月革命をいかに理解すべきか

條件は如何？ 私たちは五つの事柄を數へることが出来る。

「強大なプロレタリアート黨の統一的指導のあつたこと」一八七一年のバリ・

コムミュンにはブランキー派とプルドン派との二黨があつて、不可分な統一的戰術が行はれなかつた。一九一七年のロシア革命においては、長年の比類なき革命的經驗の下に強大なプロレタリア黨として鍛へ上げられたボリシエヴィキが三月より十一月に至る客觀的狀勢の變化に應じ、廣汎な大衆の間からの原素的な行動に明白な意識的な形態を與へ、その鬭争力を集中してブルジョア階級的結成運動——ブルジョアの獨裁形成の運動——を撃破し、小ブルジョア革命家の諸黨を大衆から切り離し、最後に十一月の×××××を組織し得て國家權力を獲得したのである。革命的事件の直後には階級關係が異常に鮮明となる。従つて各階級を代表する黨と黨との間の對立が鋭くなる。三月革命以後において、金融資本を代表する帝國主義ブルジョア、これに對立する労働者農民の大衆、この中

間を動搖する小ブルジョアは、各々、立憲民主黨（カデツト）、ボリシエヴィキ、メンシエヴィキ及び社會革命黨の明白を形をとつて鬭争した。帝國主義ブルジョアは一意、資本獨裁への階級的結成を急いだ。小ブルジョアを代表するメンシエヴィキ及び社會革命黨は革命發展の過程においてブルジョア側へなだれ込んだ。ボリシエヴィキのみが徹底したプロレタリア的立場から、「あらゆる權力をソヴィエツトへ」といふ根本的スローガンの下に労働大衆を獲得し、統一的指導を以て彼等を十一月の勝利に導いた。ボリシエヴィキのみが都市及び農村の労働者、貧農、全被搾取者の黨として地主及び資本家に對して徹底的に戰つた。三月より十一月への發展過程において彼等のみが大地主の所有地を農民委員會に即時交付すべきことを主張した。彼等のみが労働者の直接の生産管理を主張した。彼等のみが戰爭の即時終結、無賠償の民主的媾和、諸民族の平等の權利を主張した。彼等のみが都市及び農村を襲ふ經濟的破滅に對し、銀行の國有、商品交換の民主的統制、商業の

秘密の廢止を主張した。彼等のみが怒り狂ふ反革命に對抗して労働大衆の組織を防衛し、戦線における反革命の企ての完全な解除を要求し、何等の動搖なしに労働者及び貧農の權力掌握を主張した。ポリシエヴィキは四月、六月、七月に行はれた大示威運動において常に大衆の先頭に立つてゐたのみならず、憲法議會の選舉にすら參加して、常に鬭争と實踐との過程に於て大衆を指導し、獲得し、その原素的行動を明確な意識的行動へと導いた。十一月革命勝利の第一條件はポリシエヴィキといふ戰闘的主體の確立してゐたことに在る。

「プロレタリアートの大多数が革命の側に立つたこと」三月以後に所謂二重權力が出現した。即ち一方にはブルジョアから成る假政府、他方には労働者、兵卒から成るソヴィエツトが成立した。ソヴィエツトは殆んど小ブルジョア黨たるメンシエヴィキ及び社會革命黨の勢力下にあつた。ポリシエヴィキは百戰不撓の革命的な前衛的労働者を背後

に持つてゐたが、革命當初には彼等を支持する平均的労働者は少数であつたのだ。ソヴィエツトは小ブルジョア革命家の指導の下に次等に右へ大轉換をなし、頽廢し、従つて労働者の直接の生活過程からの欲求は却てソヴィエツトに依つて抑へられるといふ奇觀が生じてきた。しかるにポリシエヴィキのプロレタリア的戰闘的な政策はその果敢な實踐を通じて次第に労働大衆の壓倒的多数を獲得するに至つた。彼等はロシヤの二つの首都、即ちモスカウ及びペテログラードにおける労働者の決定的多数を獲得した。決定的な場所において決定的な瞬間に壓倒的多数を持つことは、あらゆる戰爭に通ずる勝利の條件であり、激烈な階級戦においても通ずる法則である。首都又は最も重要な商工業中心地の獲得は著しく國民の政治的運命を決定する。ポリシエヴィキがモスカウ及びペテログラードのソヴィエツトに壓倒的優勢を占めたことは地方の労働者、貧農、戦線の兵卒を獲得する上の有利な條件となつたのみならず、労働者自身の××××を組織しブルジョアジーに迅速な決

定的な打撃を與ふる政治的準備條件であつたのである。ポリシエヴィキの指導の下に最も積極的に活動した二大都市の労働者大衆は、國家機關における官僚及びインテリゲンチヤの自暴自棄な反抗とサボターヂユを清算し、却て勤勞非プロレタリア大衆の信頼をもち取つたのである。

「農民及び兵卒がプロレタリアートの側に立つたこと」 農民は土地を欲し、兵卒は平和を欲す。これが革命發展の過程における農民及び兵卒の根本的欲求であつた。然るにブルジョアは大地主の土地に手を觸れようとせず、小ブルジョア黨は土地問題を憲法議會まで延期しようとした。ポリシエヴィキだけが大地所有の即時没收を主張した。ブルジョア及び小ブルジョア黨は平和を締結せざるのみか、英佛資本の指導の下に帝國主義戰爭を繼續し、ケレンスキーに至つて、兵卒の市民權を奪ひ、戦線において死刑を復活した。ポリシエヴィキのみが戰爭の即時終結、死刑の廢止を要求した。農民は次第にプロ

レタリアートの側に立つた。兵卒、殊に首都に近き重要戦線における兵卒の大多數はポリシエヴィキを支持したのである。以上の如くして廣汎な労働者、農民、兵卒の大多數がポリシエヴィキの統一的指導の下に積極的集中的な階級行動を戦ひ抜いたことは十一月革命勝利の重要條件であつたのであつた。

「ロシア内の諸民族が革命を支持したこと」 帝政ロシアは弱小民族の牢獄であつた。四十余の異なる弱小民族を含むロシアでは民族問題が革命にとつての一つの根本的問題であつた。マルクス・エンゲルスの言ふ如く、他民族を解放せざる民族は自らをも解放することができない。しかるに他民族を壓迫することは帝國主義ブルジョアジーの生活原理である。ケレンスキーはタシュケンドの労働者兵卒ソヴィエツトを解體し、またフィンランドに反動軍隊を送つて同民族の運動を鎮壓しようとした。プロレタリアートの社會主義のみが諸民族の徹底的な平等の權利、その平和的な結合を主張することができる。一九

一七年のロシアにおいて此立場を代表したものはボリシエヴィキのみである。だからロシア内の諸々の弱小民族はプロレタリアートの支持者となつた。これが十一月の勝利の一件である。

「一九〇五年の革命を経験してゐたこと」一九〇五年の革命的経験がなかつたならば一九一七年十一月の勝利はなかつたであらう、とはレーニンの屢々繰り返してゐるところである。一九〇五年に於てブルジョアジー、小ブルジョア、プロレタリアートの三大階級が公然打つて出た。この三大階級の基礎的な交互關係は早くも一九〇五年に實驗された。プロレタリアートは經濟的ストライキより政治的ストライキへ、更に叛亂にまで轉化したところのプロレタリア的闘争形式について、闘争の過程中に自然生長的に生れてきたソヴェエツトの組織形態について、議會ボイコットと議會参加の戰術の交互的適用について、合法的闘争と非合法的闘争との併用について、指導するプロレタリアートと指導され

る農民との關係について、大衆と黨と指導者との交互關係について、決定的瞬間における小ブルジョア社會主義者の臆病について、等々、其他、驚くべき内容豊富な闘争経験を獲得したのである。一九〇五年のブルジョア革命はロシアの資本主義の發展條件となり、従つて社會主義の發展條件となり、十一月革命の勝利を約束する客觀的な社會的事情を次第に作つたのであるが、プロレタリアートはこの歴史的な闘争経験に依つて、十一月革命を戦ひとるべき階級的團結と闘争力の集中とを築き得たのである。

第二章 十一月革命におけるボリシエヴィ

キの戦術

一 三月乃至十一月の主要事實

〔序〕 革命は人民の巨大な大衆の生活に急激な變化をよびおこす。三月のブルジョア革命より十一月のプロレタリア革命に至る荒々しい轉換期に於て、幾千萬の人間の生活條件は急激に變化し各階級はそれぞれの目的、力、手段を露骨にさらけ出した。人々は普通の平凡な一年間よりも更にヨリ豊富な多量な事柄を僅か一週間のうちにも學び知る。ロシアのプロレタリアートはボリシエヴィキの戰闘的な統一的指導の下に其戰闘力を集結し、

三月に獲得した諸條件を不撓不屈に發展せしめて十一月の勝利を戦ひとつた。ロシアのプロレタリアートの此短い期間における體驗は無数の教訓を與へる。だが此小冊子にロシア革命の全形像を其史的發展の順序に従ふて叙述することは不可能である。だからこゝには寧ろ三月から十一月に至る間のボリシエヴィキの戰術の全基礎の論述といふことに問題を制限するのである。だが三月より十一月に至る革命發展の主要事を次に一應摘記しておく

〔第一段階〕 ツアールの退位した三月十二日から、政治的權力がソヴェエツトに歸した十一月七日までの約五ヶ月間は、三つの段階に分れてゐる。スターリンに従つてこの各段階を特徴付けると次の如くである。

第一段階は三月乃至四月であつて、プロレタリア黨の再組織、大衆の自己組織の時期である。

この段階における重要事實。

十一月革命におけるボリシエヴィキの戦術

○一九一七年三月十二日、レンングラードの労働者は軍隊と呼應して、皇帝ニコラス・ロマノフの絶對主義を倒す。

○ブルジョア代表者より成る假政府が成立する。帝國主義ブルジョアの擡頭でありブルジョア獨裁を表現するものである。

○革命第一日に労働者兵卒ソヴェエツトが出現する。プロレタリアートと農民とのXXを表現するものである。

○一方に假政府、他方にソヴェエツトがある。後者は前者に政府を托し自らは統制者を以て満足する。即ち二重権力が支配する。この妥協、取引は「接觸委員會」で行はれる。

○ソヴェエツトには小ブルジョア的なメンシエヴィキ、社會革命黨が多數を占め、ボリシエヴィキはなほ少數である。

○四月三日にレーニンが歸國する。彼の有名な「四月テーゼ」が發表され、ボリシエヴ

イキの綱領的要求が確定し、確乎たる方針の下に鬪争が行はれ出す。

○戦争を繼續するや否やの問題が直接緊急の問題となる。

○四月二十日、二十一日にレンングラードで資本家政府反對の自然生長的な大示威運動が行はれる。

○戦線の散兵濠においてドイツとロシアとの兵卒の交歡が盛にはじまる。

○政權の第一回の危機がくる。

小ブルジョア指導者の下にソヴェエツトが次第に右へ轉廻する。

「第二段階」この段階は五月乃至八月であつて、矛盾の増大に伴ひ、大衆の革命的動員の行はるゝに至つた時期である、

この段階における重要事實。

○この期間を通じて經濟的破滅の危機が深刻化し、階級對立が激成し、各階級を代表す

る諸黨間の闘争が激しくなる。

○五月一日「民主的平和」のスローガンの下に各地でメーデー示威運動が行はれる。

○聯合政府が成立する。即ちツエレテリ、チエルノフ等の小ブルジョア社会主義者が資本家と共に政府を形成する。社会革命黨、メンシエヴィキの資本家との妥協又はそれへの降服が激しくなる。

○ブルジョアが生産をサボタージュする。

○レーニンが第一回全露農民代表會議に演説して、土地没収、農業労働者ソヴィエットの必要、労働者と農民の結合等、ボリシエヴィキの農民政策を公にして農民大衆を引きつける。

○社会主義大臣の約束が一向實行されない。資本家及びメンシエヴィキ、社会革命黨は農民や小ブルジョア大衆を労働者に向つてけしかける。

○六月十八日に「資本家大臣を葬れ」「工場閉鎖の資本家を倒せ」「生産管理を實現せよ」「攻勢政策反對」全ての権力をソヴィエットへ」等のスローガンの下に大示威運動が行はれる。これらのスローガンはボリシエヴィキのそれであつて、彼等は次第に大衆を把握するに至る。

○六月十八日、戦線で新しい攻勢の命令がくだる。結局、敗戦がつづく。

○カデットからの大臣が脱退する。戦争失敗の責任を社会主義大臣になすり付けるためである。

○七月三日、四日にレニングラードで労働者の武装一揆が行はれる。失敗する。

○この七月事件を契機として狂暴な反革命がはじまる。小ブルジョアを指導者とするソヴィエットが墮落してブルジョアに屈する。

○ケレンスキーのボナパルト主義政府が成立する。ボリシエヴィキに對する迫害が行は

れる。トロツキイ、カメネフ、コロンタイ、ルナチヤルスキー等が逮捕される。レーニンが身を隠す。プラヴダ編輯局が破壊される。反動的軍隊が召還される。

○兵士の死刑が復活する。反革命が荒れ狂ふに至る。

〔第三段階〕 九月より十一月に至る此段階は、政權獲得のために攻勢を組織した時期反革命ブルジョアジーと革命プロレタリアートの最も鋭く對抗するに至つた直接の内亂期である。

この段階の重要事實。

○九月、將軍コルニロフが反動軍隊を率ひて革命的労働者を盡殺せんがためにレーニングラードに迫つてくる。ボリシエヴィキが先頭に立ち、武装労働者及び革命軍隊を率ひて對抗する。ケレンスキー政府はやむを得ずコルニロフを逮捕する。この暴亂は労働大衆を極度に憤激せしめて其反抗力を高める。

○次第にソヴィエツト及び主要戦線の兵卒の間にボリシエヴィキが優勢を占むるに至る

○モスカウ及びレニングラードのソヴィエツトがボリシエヴィキ支持を決議する。

○北方ソヴィエツト大會及びレニングラード・ソヴィエツトが戦線への軍隊派遣の反対を決議する。

○モスカウ民主會議が行はれる。トロツキイを先頭としてボリシエヴィキが示威的に退場する。

○農民の間の暴動が續發し、危機が次第に熟してくる。

○小ブルジョア指導者はブルジョアの陣營へ轉落せんとするが、小ブルジョア大衆はプロレタリアートに深き信頼を寄せ始める。

○十月二十三日のボリシエヴィキ中央委員會はレーニンの武装一揆の提案を可決する。ジノヴィエフ、カメネフの二人が反対する。革命直前の日和見主義的動搖の一例である。

○レーニングラード・ソヴィエットの軍事革命委員會が成立する。

○レニングラード守備隊が右軍事革命委員會を武力を以て擁護することを決定する。

○十一月四日頃から軍隊内の重要地位はボリシエヴィキが占める。

○十一月六日夜、革命軍隊は停車場、郵便局、電話局、帝國銀行、電信局を占領する。

ボナパルト的政府は殆んど流血なしに瓦解する。假政府の大臣が逮捕される。軍事革命委員會が政權を獲得する。

○十一月七日、トロツキイはレニングラード・ソヴィエットの集會において萬雷の如き喝采を浴びつゝ、軍事革命委員會の名において「假政府はもはや存在せず」と宣言する。

同日午後六時から開かれた第二回全露ソヴィエット大會は權力がソヴィエットに歸屬したことを宣言する。大會はケレンスキー政府に依つて監禁されてゐる労働者、兵卒、農民を直ちに釋放する。土地と平和とに關する布告が直に可決される。レーニンを首班とする

る人民委員會が多大の感激の下に選出される。

以上の、三月より十一月に至る革命進行の過程において、唯一のプロレタリア黨たるボリシエヴィキはいかなる戰術を以て戰つたのであるか、それを以下に論述する。

二 客觀的狀勢階級關係のマルクス主義的把握

「戰術の基準としての階級間の力の問題」 戰術とは一定の歴史的段階内における客觀的狀勢の個々の特殊的な變化に伴ふての闘争方法である。運動の波の高低に伴ふて比較的短い期間内に、戰術は屈伸せねばならぬ。殊に革命期に際しては、階級間の對立は異常に鮮明となり、各階級の力が極度に緊張し、相互に衝突するのであるから、行動上の任務及び形式は、階級間の力の關係、これに依つて規定された政治關係の具體的特質を

最も精確に、最も客觀的に觀察することから決定されねばならない。ボリシエヴィキはプロレタリアートの不朽の戰術家レーニンの指導の下に客觀的狀勢を最も科學的に把握した。この故にこそ彼等は三月革命以後の激轉してゆる形勢に應じ、後に述ぶるが如き最も輝かしいマルクス主義的戰術を展開し得たのである。

「一九〇五年より一九一七年三月までの階級關係」 レーニンのいふ如く、一九〇五年の革命的經驗なくしては、ロシアのプロレタリアートは一九一七年の勝利を獲得することはできなかつたのである。この故に、一九〇五年以後の階級關係を觀察しておくことも、一九一七年を理解する上に缺くことができない。

憲法議會、民主的共和國、労働者及び農民の民主的革命的獨裁といふスローガンの下に戰はれた一九〇五年革命が慘敗した後に、暗黒な反動革命の時代が続いたが、それでもこの革命が準備した資本主義的發展は、ロシアの階級關係に多くの變化をよびおこした。ツ

アールをめぐる權力階級たる大地主は依然と半農奴所有者として絶對專制主義の物質的基礎であつたが、農業の資本主義化に伴ふてブルジョア化された地主が現はれ、地方、産業部門においては金融資本の支配が次第に確立し帝國主義ブルジョアの階級結成が進行した。大多數の貧農は土地飢饉と飢餓と地代の搾取とに悩んで絶對專制主義に對する巨大な反抗勢力となつた。プロレタリアートは革命的エネルギーの泉源として一直線に階級結成の道を進み、鐵の如き訓練を有するボリシエヴィキ黨を生み出した、労働者の經濟闘争は悉く政治的性質を帯びた、

一九一四年以來の強奪的世界戦争は、帝國主義ブルジョアと絶對主義的地球主との抱合過程を急激に促したが、他方において工場法の廢止、警察力を以てする労働運動の壓迫、物價騰貴、穀物家畜の徵發、饑飢、大規模の戰死等々は労働者と農民の大衆を激怒せしめた。更に第三の革命的勢力として兵卒が出現した。平和！ 自由！ 土地！ パン！

これこそ、一九一七年三月十二日、數世紀に亘つて歐羅巴とアジアの巨大な反動の柱であつた×××のツアーリズムを焚き拂つた直接の契機であつた。

「一の過渡的期間としての二重権力」 三月革命直後に二重権力が成立した。即ち二つの権力が同時に一國家内に存在するに至つたのだ。一は帝國主義ブルジョアジーを代表する假政府、他は勞働者兵卒代表者から成るソヴィエツトだ。この同時存在を指して二重権力といふのだ。これは過去のいかなる革命についても見られなかつたところの、特殊な、新しい現象である。

ボリシエヴィキはこの二重権力を以て、革命が第一段階から第二段階に移る過渡的瞬間を表現するものと理解した。レーニンが歸國前に瑞西から書いた「國外からの書簡」のなかに既に指摘してゐる此思想こそ、眼前所與の事情に對する最も革命的な把握である。ボリシエヴィキは二重権力はソヴィエツトの單獨権力の確立までの過渡的狀態に外ならな

いと考へる。そこからは直ちに「あらゆる権力をソヴィエツトへ」といふ中心スローガンが生れてくるのだ。

ブルジョアジーはツアリーズムの倒壊後、逸早く假國會委員會を作り其一部を以て第一假政府を形成した。ロシアの國家権力は舊い大地主群から新しい階級へ、即ちブルジョアジー及びブルジョア化した地主に移つたのである。彼等は革命が約束した諸改革よりも、その階級の生活原理に従つて、帝國主義的獨裁の確立を目ざして進んだ。然るに、ソヴィエツトは國家機關を處理しないが、直接に人民の大多數の上に、武装した勞働者及び農民の上に立脚する権力なのである。

この二重権力は帝國主義ブルジョアと全勞働民衆との最も尖鋭な階級對立を表現するものである。だが一國家内に二つの権力が存在することはできない。しかるに小ブルジョア革命家の影響の強烈であつた當時のソヴィエツトは、自ら國家の全機關を握ることを主張

せずして、却て妥協政策をとり、國家權力を假政府に委託し、自らは統制者、監理者を以て任じることをして満足した。ソヴェエツトは自己を以て假政府を制御し統制する團體だと思ひなし、そこに多數を占めた小ブルジョア指導者は「接觸委員會」なるものを作つて資本家政府と不斷の協議を續けた。彼等の取引した事項は、革命によりて獲得したものの維持、特赦、言論集會結社罷業の自由、憲法議會の召集、民警、地方自治、身分國籍信仰の差別の廢止、軍隊の自治等であつたが、彼等が盛澤山の文句に醉拂つてゐた間に、ブルジョアジエは英佛資本家と秘密に條約を締結し、すべてを約束しつつ何事も實行せずあらゆる可能の方法を以て労働者兵卒ソヴェエツトの權力を破壊し、除去し、革命を速かに壓殺し、帝國主義的獨裁を確立しようとしたのだ。

ソヴェエツトが自由意思を以て國家權力をブルジョアジエに托したこと——これが三月革命の第二の特質である。ボリシエヴィキは、この階級妥協の階級的根源は、純粹のプロ

レタリアートよりも小ブルジョアの夥多なロシヤの特殊事情に在ることを理解した。革命直後においてプロレタリアートは小ブルジョアの數量的強味から押されたのみならず、そのイデオロギーからも押されてゐる。この故にこそ、小ブルジョア指導者を大衆から切り離すことが絶対に必要である。然らざれば革命はゆがめられて仕舞ふであらう。ボリシエヴィキはこの見解から小ブルジョア指導者を絶対に排撃する戰術を採つたのである。

二重權力は永續することができぬ。一國に二つの政府は有り得ない、權力は單獨でなければならぬ。二重權力はプロレタリアートの單獨權力への過渡である。ボリシエヴィキはこの見解から、あらゆる權力をソヴェエツトへと叫び、小ブルジョア指導者に假借なき鬭争をしたのだ。

(だがソヴェエツトは勞農大衆の最も自主的な最も重要な自己組織であつた。人民の巨大な多數者の眞の組織であつた。三月革命に先づペテログラードに成立した此政治形態

は數週ならずしてロシアの多數の都市及び多くの地區に普及し、労働階級及び農民の廣汎なる大衆が之に集結した。三月革命まで絶対専制主義に依つて政治的自由を奪はれてゐた、労働者農民は公然、階級として打つて出で、運動の自由を利用して自己組織を始めたのだ。労働組合方面の自己組織もはじまり、革命前に數千人に足りなかつたものが一九一七年の半ばには百五十萬人にも達した。

「ブルジョア民主革命の終了」 三月革命に依つてロシアのブルジョア民主革命は既に終つた、といふ認識は、三月より十一月に至る間のボリシエヴィキの全戦術を規定するところの重要な観點であつた。三月革命以前のボリシエヴィキの根本的主張はブルジョア民主革命の獲得といふことであつた。鐵の如き絶対専制主義の支配を倒してブルジョア民主主義を獲得することは、プロレタリアートが社會主義に到達するため不可避の條件であつた。従つて「労働者及農民の民主的革命的獨裁」がボリシエヴィキの在來の根本ス

ローガンであつたのである。然し三月革命——即ち革命の第一段階——の特徴は國家權力がブルジョアジーに推移したといふことに在る。三月革命に至るまでロシアにおける國家權力はロマノフ家のニコラスを中心とする封建的貴族的地主階級の手中に在つたのであるが、革命に依つて、新しい階級即ちブルジョアジー及びブルジョア化された地主が權力の掌握者となつた。この限りに於てロシアのブルジョア民主革命は終つたのであり、それは革命の第二段階たるプロレタリア革命へ内面的に連絡するのである。

「労働者及び農民の革命的民主的獨裁」といふスローガンが一般的に正しかつたことは歴史が證明した。しかし具體的には人々の期待したところとは頗る異つた、頗る獨創的な、特質的な形を以て現出した。その形とは労働者、兵卒、農民ソヴェエツトだ。

ボリシエヴィキのうちの或る人々——カメネフ等——は、農村におけるブルジョア革命のまだ終らないことを理由として、三月革命以後にもなほ「労働者及農民の革命的民主的

「獨裁」といふ古いスローガンに執着した。レーニンはその誤謬を「戦術についての書簡」といふ論文のなかで徹底的に駁撃した。マルクス主義者は生々した生活、實在の精確な事實を顧慮すべきであり、昨日の理論——それは高々、單に一般的根本傾向を表徴し單に生活の多様性に接近してゐるにすぎない——に執着すべきでない。このスローガンはソヴィエットといふ非常に獨創的な方法のなかに既に實現してゐる。今日、たゞ「労働者及農民の革命的民主的獨裁」といふ古い方式にのみ低徊する者は生活の背後に退却し、實際上には農民の小ブルジョア性に媚び、プロレタリア的階級闘争に反對する結果を生むのだ。むしろ眼前の任務は、ブルジョアジーと取引を結んでゐる農民をその手から切り離し、ブルジョアの影響下にある労働者とその影響から切り離し、小ブルジョア農民と貧農との對立を鮮明にして、労働者を貧農と結合せしむることに在る。そのための啓蒙的仕事を忍耐深くやらねばならない。「労働者及農民の民主的革命的獨裁」といふ古いスローガンに據つ

て未來の段階の可能性を考へて現實の日々の任務を忘るべきでない。——これがレーニンの、従つてボリシエヴィキの指導的思想であつた。

「三月革命後における階級力の消長」レーニンは革命直後に三つの根本的政治力の存在することを認識した。第一は封建的地主の首長であり舊官僚と舊將軍の首長たるツアールの××主義だ。人民はツアリズムを倒してロシアを自由な民主國たしめた。だが、ツアリズムは倒されたが、絶滅されたのでなかつた。第二は背後に小ブルジョアを率ゐるブルジョア地主及び資本家から成るブルジョア勢力だ。この第一及び第二の政治力は公然又は陰然、政治的同盟を結ぶ。假政府はこれを顯著に示した。即ちブルジョア勢力を代表する第一假政府は全國家機構（軍隊、警察、官吏）を舊來のまゝに踏襲し、絶對主義の物質的基礎たる大土地所有に手を觸れようとせず、大銀行、シンデケート、カルテル等の統制に着手せず、憲法議會召集の期日を發表せず、政府の重要な椅子を明白な××主

義者に與へ、盜賊的帝國主義戰爭を繼續し、秘密外交條約を公にせざる等、ツアールズムの諸要素と符合しつゝ、帝國主義的獨裁を確立しようとする。第三の政治力は全プロレタリアートと窮乏せる全大衆の間に同盟者を求めてゐる労働者及兵卒ソヴェットである。これらの政治力はそれぞれ、その泉源を成してゐる階級を有して居り、且つその各個の階級はそれぞれの政黨を、即ち最も強い階級的機關としての政黨を、有してゐる。三月革命は各階級の人間を緊張した政治生活のなかに投げ入れた。階級闘争は諸黨間の闘争といふ高い形態をとるに至つたのである。

三月革命後における主要の黨は四つあつた。第一はカデット（立憲民主黨）よりも右翼の黨又は流派であつて大地主並にブルジョア中の遅れた層を代表する。彼等はツアールズムの基礎であつて、ロマノフ朝の復興に賛成であり、社會主義に絶對反對である。第二はカデット及び國民自由黨であつて全資本家階級及びブルジョア化された地主を代表し、社

會主義に反對する。第三はメンシエヴィキ及び社會革命黨であつて、小所有者、中小農、小ブルジョア及びブルジョアの影響下にある労働者の一部を代表し、社會主義には不賛成ではないが直に其實現の實際手段を探るのは早すぎると考へる。第四はボリシエヴィキであつて、階級意識あるプロレタリアート、農業労働者及び貧農を代表し、労働者ソヴェットが出来得る限り速かに社會主義實現への實際的手段を講ずることを主張する。

ボリシエヴィキは、階級闘争が今や露骨に階級間の力の軋轢に依つて決定され、黨と黨との間の闘争が最も決定的な意義を持つに至つたことを充分認識し、常に自覺の純潔、獨立性を保つことに絶對の注意を拂ひ、他黨の階級的基礎を曝露し、宣傳を通じ、政策を通じて大衆を自黨の側に引き付けた。殆んどすべての檄文には常に他黨の政策を自黨のそれと對比して各黨の本質的差違を大衆の前に曝露した。ボリシエヴィキは地主黨やブルジョア黨に絶對反對の態度を採つたが、メンシエヴィキ及び社會革命黨に對しては一定範圍において妥

協政策を採つたことがある。だが後者はブルジョアジーと止度もなく妥協し、これに屈服し、廢黜して行つたのであつて、ボリシエヴィキは大衆をその影響から獨立せしめ、これらの社會主義を装ふ小ブルジョア黨をも地主黨、ブルジョア黨と共に絶対に排撃せざるを得なくなつたのである。

三 　　ボリシエヴィキの綱領的要求

「レーニンの歸國と四月テーゼ」 以上の如き客觀的狀態の分析と把握とはレーニンの力にまつことが多大であつた。彼は三月革命爆發の當時、なほ瑞西の亡命地に在つたが、ドイツの帝國主義政府を利用して（獨探の汚名を投げかけられることを覺悟しつゝ）所謂封印列車に乗つて、四月三日、疾風迅雷の如くロシヤに歸國した。ボリシエヴィキの有

力な一人は、レーニンが歸國してから始めて堅き大地に立つた感じがしたと書いてゐる。彼は歸國の翌日、早くもボリシエヴィキの集會に於て演説し、ロシヤの現勢を解剖し、ボリシエヴィキの政治、戰術の基準を明確に示した。彼がこの時に書いた有名な「現在の革命におけるプロレタリアートの任務について」といふテーゼはロシヤ革命の全過程を洞察し、驚くべき深刻さを以てボリシエヴィキの全戰術の基準を定めたのである。ボリシエヴィキはこれより絶大の確信を以て偉大な歴史的闘争を戦ひ抜くに至つた。それまでボリシエヴィキの人々には、異常に轉變した政局に對する充分な把握と確信的な戰術とがまだ出来てゐなかつた。スターリンの如き人すら四月テーゼに署名した後始めて確信を以て戦ひ得るに至つたと言つてゐるのを見れば、レーニンの歸國と彼の四月テーゼがいかに重大な意味を持つてゐるか分る。彼は同じ四月に「ロシヤの諸政黨とプロレタリアートの任務」プロレタリア黨の綱領草案」等を書いて四月テーゼの思想を一層明確に示した。

(十) ツアールの掠奪的國際條約に反對。その公開並に廢棄を要求する。

(十一) 併合に絶對反對。

(十二) 民主的平和を要求する。かゝる平和のための任務を資本家政府に委することはできない。

(十三) すべての國の君主政治は破壊されねばならぬ。それを手傳はねばならぬ。

(十四) 農民は即刻大地主の土地を××すべきか、——然り。農民ソヴェットは最も嚴格な秩序を保ちパンと肉の生産を充分であらしめねばならぬ、都市の労働者と軍隊の兵卒のために。

(十五) 一切の土地の國有。

(十六) 土地の管理其他一般の農村問題のためには農村ソヴェットのみでは不足である。

畜農はブルジョアの一部である。農民ソヴェットの外に農業労働者ソヴェットを形成せよ。

(十七) 土地の管理は農業労働者及び農民ソヴェットをして行はしめる。

(十八) 民衆は最大有力の資本主義的獨占組織たる銀行、工業シンデケートを其手に握るべきである。ソヴェットが之を管理すべきである。銀行は全國的な一銀行に統一し、これを國有とする。

(十九) 直接に社會主義を採用するのではないが、すべての生産物の社會的生產及び分配の管理權を即刻、ソヴェットに移す。

(二十) 排外的インタナショナルを排撃し、眞の社會主義インタナショナルを再建せねばならぬ。

(二十一) 戦線の敵味方の兵士の××は獎勵されねばならぬ。

(二十二) プロレタリア黨の名稱は、マルクス・エンゲルスの意義において、共産黨と改められねばならぬ。等。

四 諸モメントの敏速なる把握と展開

大衆の自然生長的反抗の目的行動化

〔大衆の失望—經濟的破滅の危機〕 レニングラードの労働者が武装一揆を企て、失敗した七月事件は一九一七年のロシア革命の發展過程における重要な分水嶺である。それ以後において反革命が尖鋭となると共に、大衆も小ブルジョア社會主義者の影響から次第に離れ、ポリシエヴィキの指導の下に守勢から攻勢へ轉じたのである。ポリシエヴィキは全期間を通じて大衆の創意と自立性とを深く信頼しつゝ、客觀的状態に應じて、大衆の自然生長的反抗を目的行動の方へ指導した。革命的エネルギーに充ちた大衆と前衛黨との間の最も典型的な交互關係は、三月より十一月への過程において明白に示された。

平和、自由、パン、土地、これこそ勞農大衆を三月革命の行動に導き入れた主要動機であつたが、ブルジョア勢力を代表する假政府はこの切實な人民の要求を満足するわけがなかつた。メンシエヴィキと社會革命黨とはブルジョアジ―と野合した。——人民は平和を欲してゐるのに、假政府はツアールの侵略戦争をそのままに繼續し、秘密條約を公開せず、六月には戦線に新攻勢をとる命令を發した。——人民は自由を欲したが、却て前代の專制が刻々に復活した。地主から土地を奪つた農民は裁判に付せられ、戦線には兵士の死刑が復活しポリシエヴィキの新聞が破壊され、トロツキイ其他の闘士が續々逮捕される状態である。——農民は土地を欲してゐるのに政府は數ヶ月の間、何事もなさず、却て土地没收を斷行した土地委員會を法廷に引出し、土地のことはいつ開くとも分らない憲法議會まで待てと農民を欺いてゐる。——飢餓が迫つてゐるのにパンは與へられない。然るに資本家は戦争を利用して暴富を積んでゐる。

矛盾が刻々に増大する。農民と地主との對立が激烈となる。工場を閉鎖して生産をサボ
 ターチュする雇主と、生産管理を主張する労働者との對立が鋭くなる。ブルジョアと苟合
 する小ブルジョア指導者に對する不満が高まる。戦争は刻々に經濟的破滅の危機を導き出
 す、生産と交通とが破壊され、物價が暴騰し、國家財政は紙幣の洪水、公債の亂發のなか
 に全く壞亂する。これが七月事件前後の形勢である。かくの如き形勢の下において労働大
 衆の不満は益々高まつた。ポリシエヴィキはこれらの契機を敏速に擲んだ。

〔大衆の憤激反抗の組織化〕四月、六月、七月の大示威運動〕革命は各階級の
 自己意識を著しく喚起する。労働者は自己の政治的權利の公然の主張者となつた。勞農大
 衆は革命過程においてソヴェットに結合することを止めなかつた。ポリシエヴィキは最初、
 ソヴェットに少數を占めてゐたにすぎなかつたが、大衆の創意を深く信頼しつゝ、その生
 活過程の不満、憤激を更に高い反抗に導いた。ポリシエヴィキの中央機關紙プラヴダは、權

力のソヴェットへの讓與、土地、銀行、トラストの國有、労働者の生産管理、一般労働義
 務、國債の不拂、戦争反對等のスローガンを大衆の間に運び込んだ。それは非常な勢で傳
 播した。戦争と假政府の問題については、日和見主義者の側に立つ労働者さへポリシエヴィ
 キ側に傾いた

四月二十日、二十一日にレニングラードで最初の自然生長的運動が燃えあがつた。それ
 は明白に政府に向けられたものであり、武装した××が大臣を逮捕しようとしたほどであ
 る。六月十八日にはレニングラードで大示威運動が行はれた。五十萬人の労働者兵卒が「反
 革命を倒せ」十人の資本家大臣を倒せ」「工場閉鎖の雇主を倒せ」「生産管理を實現せよ」「攻
 勢政策反對」等のスローガンを掲げて歩いた。これらのスローガンこそポリシエヴィキのス
 ローガンに外ならなかつたのだ。その示威運動は革命過程における激烈な階級對立の最初
 の明白な表現であり、革命的プロレタリアートの小ブルジョア顛覆の狼煙であり、ポリシ

エヴィキの大衆獲得の最初の明白な表徴である。

終に七月三日、四日のレニングラード労働者の××××がおこつた。矛盾の激化、権力の動搖、戦争政策の更新等は、大衆の憤怒を増大し、大衆の原素的な革命的エネルギーを解放した。七月三日の夜からレニングラードの労働者と兵卒とは××××を把つて集合した。ボリシエヴィキはこの××××をやることを欲してゐなかつた。一般的形勢はまだそこまで成熟してゐなかつたからだ。社會革命黨やメンシエヴィキ等の裏切者どもは、若しこの示威運動をやればレニングラードに反動軍隊を送り込む、死刑を復活する、逮捕を行ふ、非合法新聞を禁止する等々と威嚇した。大衆を絶望的闘争に誘ひ込むことを欲しなかつたボリシエヴィキはこの示威運動に平和的組織的性質を與へようとした。だが大衆の自然生長性は餘りに激烈であつた。ボリシエヴィキはこの危機の瞬間に大衆をおきざりにすることは出来なかつた。ボリシエヴィキの歴史を一貫する英雄的な大膽、大衆のなかに身を以て入る熱烈

な、献身的な、殉教的な勇氣は、このとき最も果敢に發揮された。一旦運動がはじまるやボリシエヴィキに直ちにその中へ入つて、これを指導した。一揆は一時的勝利の後に惨敗し銃殺、捕縛が相次ぎ、ソヴィエットの武装解除すら行はれ、ボリシエヴィキは極度に弾壓を被るに至つた。終にケレンスキーのボナパルト主義が一時的に勝利を博した。

「守勢から攻勢へ」目的行動の組織化」大衆の反抗はこれで鎮壓されたか？ 否

！七月事件は階級對立を愈々尖鋭にし、反動革命の狂暴は、却て大衆をして勝利か然らざれば敗北を深く決意せしむるに至つた。七月事件以後、正に直接の内亂期に入つた。

大衆が再び戰鬥力を昂揚、集結する機會となつたものは九月初旬の反動將軍コルニロフの暴亂である。彼はコサツクより成る反動軍隊を率ひて革命の中心レニングラードに進撃を開始した。労働者はボリシエヴィキの指導の下に敢然、これに對抗した。コルニロフの暴亂は失敗に終つた。

農村においては農民が大地主を襲ふて自發的に土地を××する行動を頻々として始むるに至つた。危機は次第に解決に近づいてくる。

ソヴェエツトにも軍隊にもポリシエヴィキが次第に強勢となつた。クロンスタットの水兵は一ポリシエヴィキを指揮者とした。××××の一般的條件は異常に展開された。ポリシエヴィキはこの一般的情勢を直ちに把握し、急速に××××を可決し、終にレニングラード軍事革命委員會を通じて政權を獲得するに至つたのだ。××××の問題は後にも論ずる。

五 小ブルジョア社會主義の徹底的排撃

「メンシエヴィキ及び社會革命黨の諸罪惡」 ロシヤ革命の過程において、小ブルジョア黨たるメンシエヴィキ及び社會革命黨と、プロレタリア黨たるポリシエヴィキとの對立

は無比の尖鋭さ、峻烈さを帯びた。前者は革命の重大な瞬間において却て革命の敵のための最も強い支柱となつた。ポリシエヴィキは之等の黨派から大衆を切り離すことに多大の力を注がざるを得なかつた。

メンシエヴィキ及び社會革命黨の墮落廢頹の過程こそ教訓的なものである。彼等がかねて口で社會主義を唱へてゐたのである。だが異常に現實的な事實が刻々おこつてくる革命期においては、刻々に正體を自ら曝露して、ブルジョアジーの陣營に轉落し、却て反動の擁護者とならざるを得なかつた。彼等の墮落と廢頹の過程は三つの段階に分つことができる。

第一は彼等が革命直後にソヴェエツトの權力を主張せずして、ソヴェエツトをして階級協調の機關たらしめたことだ。當時、ソヴェエツト内ではメンシエヴィキと社會革命黨とが多數を占めたが、彼等は假政府に對する統制者といふ空虚な名前に満足し、ソヴェエツトをして無力な決議文の作製や單純な希望の作製のみに従事する饒舌の場所たらしめたのだ。假政府

の危険な帝國主義的性質、二重權力の許すべからざること、ソヴェット權力の革命的性質は彼等の故意に避けた問題である。彼等は所謂接觸季員會に於て資本家政府と不斷の協議を續けた。

第二は所謂聯合政府の段階である。假政府は四月の示威運動後に社會主義者をひき入れて新内閣を作つた。革命過程において各階級は迅速に階級政策を學ぶ。資本家も學ぶ。ロシアの資本家は大衆の自然生長的な反抗運動を見るや、忽ち西歐諸國の資本家が民衆を欺瞞し分裂せしむるために用ひ來つた「聯合政府政策」を採用した。だがブルジョアジーの内閣に入つた「社會主義」指導者が常に資本家の單なるワラ人形であり、労働者を欺く道具方であることは諸國の經驗が示してゐる。五月六日に新内閣を組織したブルジョアジーはチエルノフ、ツエレテリ等の「社會主義者」を大臣に任命した。メンシエヴィキと社會革命黨とは卑しくも自黨出身の裏切者の大臣振りに恐悅した。だが此社會主義大臣等はその

約束を何等實行せず、若くは實行することを許されず、却て帝國主義戰爭の繼續に賛成しクロンスタットの反抗に對しては態々ツエレテリが出掛けて鎮壓した。彼等が資本家を制御するために何事もしなかつた間に、資本家は彼等を通じて民衆から戰爭繼續の約束を受取り、日一日と自己の地位を確立して行つたのである。

第三はメンシエヴィキと社會革命黨とが全くブルジョアジーの附屬物となり終つた段階だ。七月事件に際しては、レニングラードの労働者に對し反動軍隊の派遣、死刑の復興等を以て脅迫したのは前述した。

メンシエヴィキと社會革命黨とは、一旦、階級妥協といふ道を歩き始むるや、止度もなく轉落した。彼等の空約束に幻滅を感じて大衆が續々彼等を去るや、彼等は愈々反動的となり、「レーニンは獨探だ」「ボリシエヴィキは反革命だ」といふが如き下劣なデマゴギを弄し自らブルジョアジーのための反動革命の支柱以外でなくなつたのだ。

小有産者の數が純粹のプロレタリアートよりも多數を占めてゐたロシアに於て、この小ブルジョアの社會主義者が一時ソヴェット内に優勢であつたことは不自然でなかつた。かかる所においてはプロレタリア革命家と小ブルジョア革命家との差違が激烈に現れる。だが結局において、無比の困難と危険とに際して意氣沮喪せず、躊躇、動搖するところなく、全搾取大衆を眞にその解放のための闘争に指導し得るものはプロレタリア革命家のみである。三月革命以後の労働大衆は意識しなくとも結局、社會主義の建設を欲求してゐた。だが小有産者の基礎の上に社會主義を建設することはできない。事實上、メンシヴィキや社會革命黨の最良分子（特に左翼社會革命黨）はそれらの黨を去つてポリシエヴィキに投じた。ポリシエヴィキは小ブルジョア社會主義を克服することに依つてプロレタリアートの勝利を確保したのだ。

「プロレタリア革命家と小ブルジョア革命家」 プロレタリア革命家と小ブルジ

ヨア革命家との重大な差違の一つは、前者が大衆の創意と自立性とを深く信頼しつつ之を社會主義的目的行動に高めようとするに反し、後者が大衆を信ぜず、大衆の創意に安んぜず、大衆の革命的エネルギーに對して戰慄することである。レーニンは之を以て社會革命黨及びメンシエヴィキの首領があらゆる場所で犯した罪惡の根元であり、新しい酒を古い官僚的國家機關の古い皮袋に盛らんとする彼等の不決斷、彼等の動搖、彼等の反覆常なく且つ常に無効なる計畫の根元がこゝに横はると論じてゐる。

彼等小ブルジョア社會主義者は大衆が旺盛な闘争力を示すに至るや、これを壓迫し、憎悪し、あらゆる不潔なデマゴギーを試み、労働者に對して農民や小ブルジョアをケンかけようとするのだ。尤も平時において大衆が組合主義的闘争の欲求のみを有する場合には、彼等小ブルジョア社會主義者はたゞ之に追隨するのであるが、一旦大衆がより高い闘争を試みようとすると、忽ち狼狽し、怒り、悲しみ、憎悪し、最後にはブルジョア側に駆け込

むのである。これは小ブルジョア革命家にとつての一の法的現象である。

ボリシエヴィキは果敢に彼等と闘争し、労働者農民大衆を彼等から切り離さねばならなかつた。特に農民を彼等の影響から獨立せしむることは重要な意味を有してゐた。ボリシエヴィキはあらゆる具體的事實、あらゆる具體的闘争を通じてメンシエヴィキと社會革命黨の階級性を暴露した。ボリシエヴィキは聯合政府時代、ケレンスキー時代、社會革命黨とメンシエヴィキの土地没收の躊躇、その戦争繼續政策、七月事件、兵士死刑の復活、コルニロフ事件、地方議會の選舉戦等を通じて次第に農民及び兵卒をプロレタリアートの側に引き付け、之を自己の指導の下においたのだ。

「妥協について」 ボリシエヴィキは一定事項においてメンシエヴィキ及び社會革命黨に對して妥協的政策を示したことがある。即ち三月革命直後の二重權力の時代において、この兩黨とカデットとのプロツクを打破するために、この兩黨をしてソヴィエツト政府を形成

することを提唱したことがある。それは可能なことであり、權力が平和的にソヴィエツトへ移るといふことが有り得たのである。ボリシエヴィキは宣傳の自由、ソヴィエツト内部における各黨の闘争の自由を條件とした。レーニンは九月にもかゝる妥協の可能性を考へたことがある。その思想は「妥協について」といふ有名な論文の中に述べられてゐる。だが鐵鎖を以て自らをブルジョアジーに縛り付けてゐるメンシエヴィキ及び社會革命黨の小ブルジョア革命家は之に耳を傾けなかつた。だから彼等は階級意識あるプロレタリアートのために粉碎されねばならなかつたし、そして粉碎された。

六 ボナパルト主義に對する闘争

「反革命の要具としてのボナパルト主義」 七月事件はプロレタリアートが武器

十一月革命に於けるボリシエヴィキの戦術

を把りて起ち、しかも反革命によりて壓服された重大な出来事である。ブルジョアは一方において英佛等の國際資本と堅く結ぶと共に、國內に於ては今や軍事的獨裁の樹立を欲求するに至つた。ケレンスキーはその好個のカラクリ人形であつた。彼はブルジョアからロシヤの救世主の如くに持ち上げられた。これより當分の間、ロシヤに於てボナパルト主義が成立した。

ボナパルト主義についてはレーニンが次の如く言つてゐる。

「ボナパルト主義は何れの黨にも屬しないことを標榜して、資本家の黨と労働者の黨との間の鋭い鬭争を自分の爲に利用しようとする政府を指してゐる。かくの如き政府は實際に於ては資本家のみに奉仕するものであり、約束と絶望の贈り物を以て最も巧妙に労働者を欺くものである。」

ボナパルト主義者は主觀的には階級鬭争を自己の利益のために利用するのだと考へ、己れは階級の上に立つてゐるのだと考へる。だが客觀的には彼を利用するブルジョアジイの道具に外ならない。ボナパルト主義は反革命の勝利の隠れた形だ。そして其主役を演ずるものは常に革命の裏切者だ。一七九九年のナポレオン一世、一八四九年のナポレオン三世の例は之を示してゐる。——だが西歐のボナパルト主義とロシヤのそれとの間には重大な差違があつた。即ち西歐に於ては、革命の提起した諸問題が解決せられた後に、ボナパルト主義が成立したに反し、ロシヤに於ては、それが毫も解決されてゐない時期に成立したことである。こゝにケレンスキー政府の破滅の不可避性が存してゐたのだ。

ケレンスキーの獨裁——ロシヤにおけるボナパルト主義——の成立も、また一の不可避な現象であつた。ロシヤは小ブルジョアの國であつたが、資本主義は既に相應に發展して居り、三月革命以後の階級鬭争の發展において、ブルジョアジイとプロレタリアートとの對立は尖鋭化したのであり、そして兩者の中間を浮動する小ブルジョアがブルジョア側に傾いた

が故に、七月事件にプロレタリアートが敗北し、ブルジョアジーの反革命が勝利し、その反革命の隠れた形としてボナパルト主義が成立したのである。七月事件に於て小ブルジョア指導者が反動軍隊をレーニングラードに導き入れたことは、ボナパルト主義者たるケレンスキーに権力を確定的に與ふる端緒であつたのだ。ロシア革命における小ブルジョア指導者の罪過は實に大きい。

「反革命との決定的闘争」 反革命のプログラムは革命の破壊、ソヴィエットの破壊にある。ケレンスキーは國際資本の援助を受けつつ、國內の革命の壓殺に狂奔した。反革命が荒れ狂ふた。彼等はボリシエヴィキを「左翼反革命」と呼び、革命擁護のためにボリシエヴィキを壓迫するといふ奇抜な、下卑なデマゴギーを弄した。土地を欲する農民に對しては逮捕と懲罰隊の派遣と裁判所とを以て答へた。資本家リヤブシンスキーは労働者の運動に對し、彼等を「飢餓封鎖」すべしと公言した。プロレタリア黨たるボリシエヴィキに對して

は指導者の逮捕、新聞の禁止、集會の自由の剝奪を以て迫害した。軍隊においては死刑が復活し、兵卒の市民権が奪はれ、ツァール時代の「鉄の規律」が再現した。労働者農民の勢力を無視した民主主義會議なるものを催して大衆を欺瞞せんとした。自由を要求する諸民族に對しては、タシケンドの勞兵ソヴィエットの解散、フィンランドへの懲罰隊の派遣等を以て答へた。

ボリシエヴィキは精力的に大衆の間にボナパルト主義の反革命的性質を宣傳し、その階級の上に立つ如き外觀の背後に存する階級性を暴露した。ボナパルト主義が繼續してゐる限り、ソヴィエットが政治権力を獲得しない限り、人民は平和を得る能はず、農民は土地を得る能はず、労働者は八時間労働を得る能はず、飢えたる者はパンを得る能はざることを宣傳した。

ボリシエヴィキは小ブルジョアの的なメンシエヴィキや社會革命黨の罪惡が今や決定的に労働

民衆に恐るべき惨害を齎らし來つたものであること、これまで労働民衆が彼等の言葉に耳を傾けたことの誤謬がこの恐るべき結果を生んだのであること、廣汎なる大衆は革命的プロレタリアート及びその黨の指導の下においてのみ、自らを救ふことができること、を宣傳した。

だがポリシエヴィキは單に宣傳に終始したばかりでなく、自然生長的に昂揚してくる大衆の闘争のなかに入り、これを指導し、更に高い目的行動の方へ指導したのだ。大衆の主觀的狀態と、事物の客觀的進行とは到底、ケレンスキーのボナパルト主義を永續せしむることとはできなかつた。大衆は急激に政治的に自覺し、小ブルジョアの空想を捨て、階級意識あるプロレタリアートへ手を差しのばすようになつた。ポリシエヴィキは刻々にソヴィエットにも軍隊にも優勢となつた。バクのストライキはポリシエヴィキに依つて指導された。バルチック艦隊においてもポリシエヴィキが勝つた。モスカウ市會の選舉ではポリシエヴィキが一パ

ーセントから五〇パーセントに躍進した。金屬、木材、紡績労働者のストライキや、官吏の罷業もポリシエヴィキに依つて組織された。——××××の必然性はかくして準備された。「あらゆる權力をソヴィエットへ」といふポリシエヴィキのスローガンは大衆の間に動かすべからざる欲求となつた。

ポリシエヴィキは反動革命に對して徹底的に戦つた。社會革命黨とメンシエヴィキは反革命の前に屈服した。ポリシエヴィキは大衆のあらゆる場所に入り、ボナパルト主義の秘密を暴露し、大衆の自然生長的反抗を煽動し、組織し、更に是を最も高い目的行動の方へ、政權獲得の大衆的闘争の方へ指導したのである。

七 大衆行動の組織化

「マルクス主義と一揆」

労働者の×××は大衆行動の最も緊張した形態である。

ボリシエヴィキは是を通じて政權を獲得した。最初、四五月頃にはボリシエヴィキは權力をソヴィエットへ平和的に移轉することの可能であることを信じたのであるが、小ブルジョア指導者の裏切、反革命の狂風のうちに、×××を以て政權を獲得する手段に出でざるを得なかつたのである。

この大衆行動を主唱し且つ指導したのはレーニンである。レーニンは既に一九〇五年よりして此思想を明確に所有して居り、同年十二月のモスカウ一揆はボリシエヴィキに依りて指導された。一揆はブランキズムであるといふ批評が存在してゐる。レーニンは、マルクス主義者の意味する一揆と、ブランキストの意味するそれとの差違を次の如く述べてゐる。「一揆が成功するためには、それは一の陰謀團、一の黨に立脚してはならず、一の進歩的な階級に立脚せねばならない。これが第一である。一揆は民衆の革命的な昂揚の上に立脚

しなければならぬ。これが第二である。一揆は、民衆の先頭隊の活動が最大であるに反し、敵及び其追隨者の陣營の動搖が最大であるが如き、革命發展の轉揭期に、なされねばならぬ。これが第三である。この三つの條件がマルクス主義をブランキズムから分つのである。」(「マルクス主義と一揆」一九一九年九月)

更にレーニンは他の論文で次の如く言つてゐる。

×××は政治闘争の一特別形態である。それは特別の法則に従ふものである。これについて何人も正確に考慮せねばならぬ。カールマルクスは非常にハツキリと此思想を表現した。即ち彼は一××戦争と同じく一の技術であると書いてゐる。

マルクスは此技術の主要法則を次の如く書いてゐる。

一、決して××を遊戯化してならぬ。一揆が始まつたならば終局まで貫くことを正確に知らねばならぬ。

二、決定的な場所、決定的な瞬間に優劣な力を集めねばならぬ。然らざればヨリよい準備と組織とを使つてゐる敵は、この××者を撃破するであらうからである。

三、××が一度始つたならば最大の果斷を以て行動し無條件に攻勢に移つてゆかねばならぬ。「守勢は××××の死である。」

四、敵の軍隊が分散してゐる限り、これを奇襲し、機先を制せねばならぬ。

五、日々、何等かの小さい成功をすることをつとめねばならぬ。(個々の都市に關する限りでは一時間々々と言つてよい。)そして如何なる對價を拂つても道德的優越を維持せねばならない。

マルクスは×××××についてのあらゆる革命の教訓については「歴史上の革命戦術の最大教師」ダントンの「勇氣、勇氣、勇氣、更にも一度勇氣」といふ言葉を繰り返した。「一不參加者の忠告」一九一七年十月」

以上が十一月の×××××の指導者たるレーニンの一般の見解である。

「七月の敗北と十一月の勝利」 七月事件も十一月の勝利も共に×××××からであつた。何故に七月に敗北し十一月に勝利したのであるか。その理由は次の如くである。

三、七月においてポリシエヴィキは未だ革命の先頭たる労働階級の上に立脚してゐなかつた。しかるに十一月においては兩首都の労働者及び兵卒の上に確實に立脚してゐた。

二、七月當時には未だ一般民衆の間に革命的な不満反抗が眞實に湧き立つてゐなかつた。然るに七月事件後、反革命が狂暴を逞くし、殊に九月の反動將軍コルニロフのレニングラード進撃事件のあつた後には、大衆の昂揚が一般的となつた。

三、七月當時に於てはブルジョアジー及び其追隨者たる小ブルジョアジーの間に激烈な動搖が起つてゐなかつた。十一月に至つて、ブルジョアジー及び國際資本の間には戦争問題について動搖がおこつて居り、小ブルジョアの間にはメンシエヴィキ及び社會革命黨が多數派

の地位を失ひ、カデットとのブロックも破れるような状態であつた。

四、七月においてボリシエヴィキは未だ反革命及び小ブルジョア及裏切者に對する徹底的な憤怒に燃えて居なかつたに反し、七月事件後にボリシエヴィキを壓迫するためにメンシエヴィキと社會革命黨が共働したことや、コルニロフ事件のためにボリシエヴィキは徹底的に闘争する決意をしたことも、七月の敗北と十一月の勝利の二つの條件であらう。

「決定的瞬間における日和見主義的動搖」十月二十三日のボリシエヴィキの中央委員會でレーニンが××××を提案した時に、ジノヴィエフとカメネフが反對投票をした。その理由は、ボリシエヴィキが未だ充分に多數派の地位に立つてゐないこと、憲法議會に於て反對派として行動する方が有利であること、國際的情勢が未だ成熟してゐないこと、大衆の間には街頭行動の氣分がなほ缺けてゐること、少くともソヴィエト大會まで待つべきであること、等であつた。この傾向に對して、レーニンは眞向から「躊躇することは犯罪であること、等であつた。この傾向に對して、レーニンは眞向から「躊躇することは犯罪であ

り、ソヴィエト大會を待つといふのは一の子供らしい形式遊戯であり、革命に對する恥づべき裏切である」と叱咤し、これを粉粹した。ジノヴィエフ、カメネフも短時日の間に過失を承認した。

十一月の××××についてはなほ多く論すべきことがある。特に××××の問題についてはレーニンの「國家と革命」を参照せられよ。

八 ブルジョア議會主義の克服

「憲法議會への参加、その召集と解散」ボリシエヴィキは三月革命直後にいて、ロシアにおけるブルジョア民主革命が終了したこと、革命の第二段階が近づいてゐることを認識した。この故に彼等は、「あらゆる權力をソヴィエトへ」といふ中心スローガンを掲げた



のである。だがポリシエヴィキはブルジョア民主革命にとつての根本的な政治形式たる憲法議會に對して否定的態度を採らず、却てその召集を叫び、ブルジョア政府がその召集期日を確定しないことを難詰し、其選舉に参加し、十一月革命以後には自ら之を召集し且つ解散したのである。憲法議會がブルジョアの機構であり、ソヴェット權力と根本的に矛盾することを知りつつ、ポリシエヴィキは何故にかゝる積極的參加の方針をとつたのであるか？ スターリンはその理由を次の如く數へてゐる。

- (一) 憲法議會の思想が最も廣汎に民衆の間に普及してゐたからである。
- (二) 憲法議會即時召集の要求は假政府の反動的性質の暴露を容易にするからである。
- (三) 大衆の面前において憲法議會の思想を粉碎するには憲法議會を一應召集し、これと土地、自由、ソヴェット權力等に對する人民の要求とを對應せしむることを便利としたからである。

(四) 大衆自身の經驗を通じて憲法議會の反動性を悟らしめるためである。

(五) ソヴェット共和國と憲法議會とを過渡的に結合するのは却て憲法議會を克服する道であるからである。

(六) かくの如き目的は大衆が一旦ソヴェット權力を獲得した後においてのみ可能である。憲法議會は一九一八年一月五日に開かれた。ポリシエヴィキはその有力な指導者スウェドロフを、諸派の反對を排して議長たらしめ、一切の權力をソヴェットに移すために、即日之を解散した。この解散の一つの理由は、この憲法議會の選舉が十一月革命前に行はれこの革命の進行に伴ふて發展した階級力の新結合關係を表現しなくなつたからである。十一月革命前に登録された名簿によつて選出された憲法議會は階級協調を主張するメンシエヴキと社會革命黨、またカデットが支配した舊き政治的支配關係を反映して居るのであり十一月革命以後における緊急問題に對する民衆の實際の意思と合致しない、憲法議會解散

の他の理由は憲法議會に多數を占むるメンシエヴィキや社會革命黨がソヴィエツト政府の綱領を否認し、労働被搾取民衆の權利宣言を否定し、十一月革命及びソヴィエツト政府そのものを否定したからである。要するにプロレタリアート××の根本問題は形式的な民主主義的方法に依つて解決することはできない。これがカウツキイ等の「純粹デモクラシー」を主張する偽マルクス主義者を悲しませたところの、ポリシエヴィキの憲法議會解散の「暴擧」の根本理由である。

「ポリシエヴィキの議會戰術」ポリシエヴィキが一九〇五年の第一回國會以來、一九一七年の憲法議會に至るまでに、ブルジョア議會に對して採つた、屈伸自在なる戰術は、マルクスの議會戰術の典型的なものである。今、その根本的觀察點をレーニンの諸論文を参照してまとめて見ると次の如くである。(邦譯「一九〇五年以後」左翼小兒病」憲法議會に關するデーゼ」中央執行委員會による憲法議會の解散に關する布告」憲法議會の選舉とプロ

レタリアートの獨裁」國家と革命」等を参照せよ。

(一) 普通選舉權は諸階級が自己の問題をいかに理解してゐるかの計量器である。だが問題の解決自體は投票に依つて決定されなくて、あらゆる形態の階級闘争(××××にまで至るところの)に依りて決定される。

(二) だから議會に参加するか又はボイコツトするかは、議會外の大衆的階級闘争の發展に依つて條件づけられる。

(三) 日和見主義者は小ブルジョアの民主主義の立場からして、階級闘争の根本問題が投票に依つて決定されると考へてゐる。

(四) 革命的プロレタリアートの黨がブルジョア議會に参加するのは選舉戰及び議會内における諸黨間の闘争を通じて大衆を啓蒙するためである。だが階級闘争を議會内の闘争に限局し、若くは此闘争を以てあらゆる他の闘争の上位に立つ闘争だと考ふるものは、事實

上ブルジョアジーの陣營に移行したものである。

(五)日和見主義者は言葉の上ではプロレタリアートのXXを承認するが、實行においてはプロレタリアートは、先づ資本主義支配下の人口大多數の形式的意思表示(即ちブルジョア議會の多數投票)を獲得した後に始めてプロレタリアートが政權を獲得する、と宣傳して歩いてゐる。彼等は資本主義支配の下における形式的平等の思想にしがみ付くに依つて全ブルジョア制度を是認してゐる。

(六)あらゆる資本主義國家には階級意識あるプロレタリアートの外に、自己の力をもプロレタリアートの力をも信ぜずして日和見主義に追隨する無数の無自覺のプロレタリア的半プロレタリア的、半ブルジョア的な勤勞民層がある。これらのものは、階級意識あるプロレタリアートの同盟者たるべきものであるが、これらの勤勞民層の獲得はブルジョア議會による投票を以て行はれない。それはプロレタリアートが政治的權力を握るに至つた後

において始めて行はれる。

(七)プロレタリアートの力は全人口中に占めてゐる其の數的割合よりも遙かに大きい。それはプロレタリアートが資本主義生産の中樞を成すといふ社會的條件から決定されたことであり、プロレタリアートの數が相對的に少ない場合においても、それは全勞働民層の利害を眞に代表するものであり、ブルジョアジーを克服することができる。——このことも大多數者の形式的意思表示に決定的意義のないことを示してゐる。

(八)プロレタリアートは資本主義的環境において不可避的であるところの、日和見主義、改良主義、排外社會主義、これに類似する一切の小ブルジョア的感化及び傾向、特に「純粹デモクラシー」を説教する小ブルジョア的議會主義に對する、長き、困難なる、苛酷なる闘争なくしては、その勝利を獲得することができない。

以上述べたことはポリシエヴィキの長年の闘争から綜合された一般法式である。だが法式

は一般的任務を表現し得るのみであるから、社会的環境の相違と歴史発展の各個特別の段階段階における具體的な政治的經濟的狀態に應じて適用されねばならぬことはいふまでもなし。

第三章 結論——十一月革命の教訓

私が以上に論述したのは一九一七年三月より十一月に至る、短いけれども測るべからざる重大な意義を持つ期間の出来事である。三月革命以前におけるロシアのプロレタリアートの長い、困難に充ちた、執拗果敢なる闘争、また十一月革命以後における彼等の輝かしい社會主義建設の事蹟については、この小冊子の取り扱ひ得る範圍でなかつた。

だが吾々は一九一七年三月より十一月に至る八個月におけるロシアのプロレタリアートの歴史的闘争、これを指導したボリシエヴィキの戦術から、無数の教訓を學びとることができらる。

第一 吾々は革命の瞬間における階級關係、政治關係の正しい把握がいかに戦術の基準

を定むるために缺くことのできないものであるかを學ぶ。

第二 ブルジョア民主××とプロレタリア××とが堅固な、絶對的な障壁を以て隔てられてゐるものでなく、前者が直ちに後者への發端となるものであることを學ぶ。

第三 ブルジョア民主革命の後に於いてブルジョアジイが其獨裁の確立のために如何に狂暴化し反動化するかを學ぶ。

第四 小ブルジョア革命家が口で社會主義を唱へつゝ、實行に於て、いかにブルジョアジイと妥協し、労働大衆を裏切るか、特にいかに決定的瞬間に於て臆病、卑怯、陋劣、反動となるかを學ぶ。彼等から大衆を切り離すことがいかに決定的意義を有するかを學ぶ。

第五 プロレタリアートがいかに其頭部として、強大な前衛黨を有しなければならぬかを學ぶ。いかにその統一的指導が勝利の根本條件であるかを學ぶ。

第六 黨と大衆との生々した交互關係、自然生長的反抗の社會主義的目的行動への敏速

なる轉化がいかに全プロレタリアートの勝利に必要であるかを學ぶ。

第七 農民とプロレタリアートとの政治的同盟、指導するプロレタリアートと指導される農民との協同關係がいかに重大であるかを學ぶ。

第八 議會行動と大衆行動との生きた連關を學ぶ。

第九 決定的瞬間における日和見主義的動搖を克服することがいかに重大であるかを學ぶ。

第十 決定的瞬間に決定的場所においてプロレタリアートを動かし得ることが如何に重大であるかを學ぶ。

第十一 國內における弱小民族の支持を得ることがいかに重大であるかを學ぶ。

第十二 國際主義的見地がいかにポリシエヴィキの勝利を條件付けてゐたかを學ぶ。

第十三 最後に、吾々は階級意識あるプロレタリアートの熱烈な、自己犠牲的な英雄的

行動がいかに重大であるかを學ぶ。

一九一七年のロシア革命は一七八九年のフランス革命よりも遙かに廣汎な、遙かに深刻な影響を世界歴史に與ふるものである。歴史進歩の全體性を代表するプロレタリアートは一九一七年の八ヶ月のロシアプロレタリアートの經驗を批判的に攝取しなければならな

す。

昭和二年十一月三日印刷
昭和二年十一月七日發行

著作權



所有

【十一月革命の意義】
【定價金三十錢】

翻譯者 佐野學

東京市牛込區早稻田鶴卷町四七一

發行者 市川義雄

市外戶塚町下戶塚二四〇

印刷者 內田廣藏

發行所

東京市牛込區鶴卷町四七三
振替東京六七五一九番

希望閣

<p>1871</p> <p>1872</p>	<p>1873</p> <p>1874</p>	<p>1875</p> <p>1876</p>	<p>1877</p> <p>1878</p>	<p>1879</p> <p>1880</p>	<p>1881</p> <p>1882</p>	<p>1883</p> <p>1884</p>	<p>1885</p> <p>1886</p>	<p>1887</p> <p>1888</p>	<p>1889</p> <p>1890</p>	<p>1891</p> <p>1892</p>	<p>1893</p> <p>1894</p>	<p>1895</p> <p>1896</p>	<p>1897</p> <p>1898</p>	<p>1899</p> <p>1900</p>
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

315
361

¥0.30